



ウミガメのスープ

先日、山田副校長先生より、「ボードゲーム」が各教室で使えるようになった旨の紹介がありました。

1年生のある保護者の方が、子どもたちのためにと寄贈してくださったものです。

子どもたちの学び舎の環境を充実させるために、たくさんの保護者の方々が現在進行形で力を寄せ続けて下さっていることに心から感謝しています。

山田先生のお話にもありましたが、デジタルゲームとは違い、ボードゲーム等のアナログゲームには「対面でのコミュニケーション」が生まれます。

頭を抱えて考え込む姿や、もろ手を挙げて大喜びする姿、目を見開いて驚く姿など、対面でのコミュニケーションによる面白さが存分に味わえるのがアナログゲームの特徴ともいえるでしょう。

[先日のコスモスハーモニー](#)にも、アナログゲームの代表格である「伝承遊び」について次のことを書きました。

第一に、「達成感」を味わえます。

あやとりで難しい技ができるようになったり、自分の身の丈以上の竹馬に乗れるようになった時は、それはそれは嬉しいものです。

画面を通した擬似的な達成感ではなく、実体験を通して得た達成感は、後々の財産になることでしょう。

昨日も、どんぐりゴマを回せるようになった子たちは、そのあともずーっと嬉しそうに回し続けていました。

第二に、技に向かって「努力」することです。

こつこつと取り組む子、夢中になって一日中練習する子などが出てきます。

そのような努力の経験は、必ず他のことにも波及するものです。

第三に、「自信」がつくことです。

「これだけは負けない」「これには自信がある」と胸を張って言えるようになれば、自分の技に自信と誇りが持てるようになります。

こつこつとやれば、どの子でも「スター」になれる可能性があるのが伝承遊びの良い所です。

「僕の中の1番」「私の中の1番」はいくつあっても良いと思うのです。

他にも専門的な本を読めば、手先が器用になる、右脳に良い、人間関係を学べる等々書いてありますが、特に素晴らしいのは上記の3つではないかと思っています。

ちなみに、伝統的なボードゲームの代表格と言えば、囲碁や将棋でしょう。

私も小学生の頃に将棋にはまって、友達と連日対戦に明け暮れていた記憶があります。それこそ、地域の大人たちが集まっている「将棋クラブ」などにも通って、ライバルの友達とも力を磨き合ったものです。

そういう、楽しさや充実感を体感してほしいと思っているので、かるた教材や囲碁、さらに他にもいくつかのボードゲームを1年生の各教室で使えるように導入しているところです。（今の所全て私物から導入しています）

今朝も、昨年まで実際に教室で試してみて非常に面白かったカードゲームを1年生の教室に導入したところです。（これらは、朝のマイタイムや休み時間などに自由に使ってよいこととしています）

以下の7種類のカードゲームです。

ご存じのものはあるでしょうか？



単に導入しただけではやり方が分からないので、今朝のマイタイムでは、あるクラスで「ウミガメのスープ」に取り組んでみることにしました。

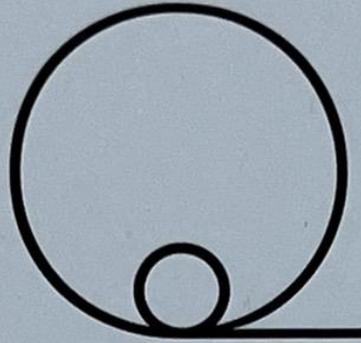
このカードゲームは、一見、不可解に思える状況の真相を、質問を重ねることで解き明かしていくクイズゲームのことです。

回答者が出題者に「YES」「NO」「関係ありません」のいずれかで答えられる質問をしていくことで真相を導き出すことから「水平思考クイズ」とも呼ばれています。（「水平思考」とは問題解決のために既成の理論や概念にとらわれずアイデアを生み出す方法のこと）

百聞は一見に如かずなので、実際にこの紙面でも子どもたちが挑戦した問題を紹介します。

答えが分かるまでにどのくらいの時間がかかったか、大体でいいので図っておいてもらえると面白さが一層増すかもしれません。

それでは、問題です。



危険な落下物

空から針のようなものが落ちてきた。

それにもかかわらず、みんな

その様子を見て笑顔になっている。

一体、なぜ？

この段階で何の質問も無しに答えにたどり着ける方は、よっぽど発想力や柔軟性に富んだ方だと思います。

それでは、実際に子どもたちから上がった質問を見てみましょう。

1. 「それは雨ですか？」
2. (いいえ、違います)
3. 「はりの『ようなもの』なんですか？」
4. (はい、そうです)
5. 「それは、石みたいなものですか？」
6. (いいえ、違います)
7. 「落ちてきたのは一個ですか？」
8. (いいえ、たくさん落ちます。いい質問です。)
9. 「それは、流れ星ですか？」
10. (いいえ、違います)
11. 「それは、つまようじですか？」
12. (いいえ、違います)
13. 「それは、夜も朝も落ちるものですか？」
14. (はい、そうです。とても重要な質問です。)
15. 「それは、針ですか？」
16. (いいえ、違います)
17. 「それは、雷ですか？」
18. (いいえ、違います。多分雷ではみんな笑顔になりません)
19. 「それは、ウニですか？」
20. (違いますが、とてもよい質問です。)

このように幾度かの質問を経て、子どもたちは真相に近づいていきました。

今朝実施したクラスでは、この20ラリーを終えた後、ある男の子が

「わかったーーーー！」

と声を上げて正解を発表しました。さて、いったい正解は何なのでしょう。

読者のみなさんも、ぜひ考えてみて下さい。(渡辺道治)

(紙面へのご意見ご感想などもいつでもお寄せください。)



[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](http://1学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ (google.com))